

# ジェネリックカルテの活用方法などについて

---

1. ジェネリックカルテについて
2. ジェネリックカルテを踏まえた使用促進の取り組み

【参考】ジェネリック医薬品使用促進のための主な取り組み（協会けんぽ）

# 1. ジェネリックカルテについて

# 1. ジェネリックカルテについて

## ■ ジェネリックカルテの活用

- 地域（都道府県、二次医療圏、区市町村）別の強みや弱み（課題）など、全体的に大まかな傾向を把握
- 課題の中から、特に重点的・優先的に取り組むべき課題の把握、取り組みの実施
- 都内関係者での地域課題の共有、連携した取り組みの実施

## ■ ジェネリックカルテの種類

	集計単位	項目	活用方法
全国	都道府県	診療種別	・病院・診療所別、院内・院外処方別など、診療種別ごとに東京都の強み・弱みを確認し、ジェネリック医薬品使用促進に向けた対策を検討。
		年代別	・年齢層別に東京都の傾向を確認し、重点的に対策を検討すべき年齢層を把握。
		薬効別	・薬効分類別に東京都の傾向を確認し、特に課題感の大きな薬効分類（医薬品）を把握。
		設置主体別	・病院設置主体別の東京都の傾向を確認し、マイナス影響が特に強い医療機関を把握。
		業種別	・業種別に東京都の傾向を確認、課題のある業種を把握。
都道府県	二次医療圏 区市町村	診療種別	・二次医療圏、区市町村別にジェネリック医薬品使用割合の低迷要因とその影響を確認。重点地域やアプローチ優先順位を検討。

# 1. ジェネリックカルテについて

## ■ 「都道府県別ジェネリックカルテ（診療種別）【令和2年10月診療分】」からわかる傾向

都道府県 コード	都道府県名 (※1)	【医療機関の視点】																			
		ジェネリック医薬品使用割合(全体) (※2、3、4、5)																			
		院内処方															院内処方率 (※6)				
		院内処方ジェネリック医薬品使用割合																			
入院			外来			病院			診療所			偏差値		指標数値							
偏差値 (※13)	指標数値	影響度 (※14)	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値		
13	東京	39	76.2	-	36	62.4	-0.9	52	84.4	+0.0	33	59.1	-1.0	36	57.6	-0.4	35	59.9	-0.6	58	15.3
-	全体	-	79.7	-	68.8	-	-	83.8	-	-	67.4	-	-	67.1	-	-	67.4	-	-	20.4	-

都道府県 コード	都道府県名 (※1)	【医療機関の視点】																						
		院外処方																						
		院外処方ジェネリック医薬品使用割合												一般名処方率 (※7、15)										
		病院			診療所			病院			診療所			病院			診療所							
偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	
13	東京	34	78.4	-3.5	37	78.8	-0.1	33	78.3	-2.8	35	50.2	-1.9	47	38.3	-0.2	30	52.2	-1.8					
-	全体	-	82.4	-	-	81.9	-	-	82.6	-	-	55.3	-	-	40.6	-	-	58.6	-					

都道府県 コード	都道府県名 (※1)	【薬局の視点】									【患者の視点】								
		調剤ジェネリック医薬品使用割合 (院外処方再掲)			一般名処方限定調剤ジェネリック医薬品使用割合 (※8)			院外処方率 (※9)			加入者ジェネリック拒否割合 (※10、15)			公費対象者ジェネリック医薬品使用割合 (※11)			全保険者とのジェネリック医薬品使用割合の乖離 (※12)		
		偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度	偏差値	指標数値	影響度
		13	東京	34	78.4	-3.5	31	84.2	-	58	84.7	-	36	18.8	-3.5	42	67.6	-0.2	52
-	全体	-	82.4	-	-	88.2	-	-	79.6	-	-	14.7	-	-	70.6	-	-	+0.8	

傾向は次ページへ

# 1. ジェネリックカルテについて

## ■ 「都道府県別ジェネリックカルテ（診療種別）【令和2年10月診療分】」からわかる傾向

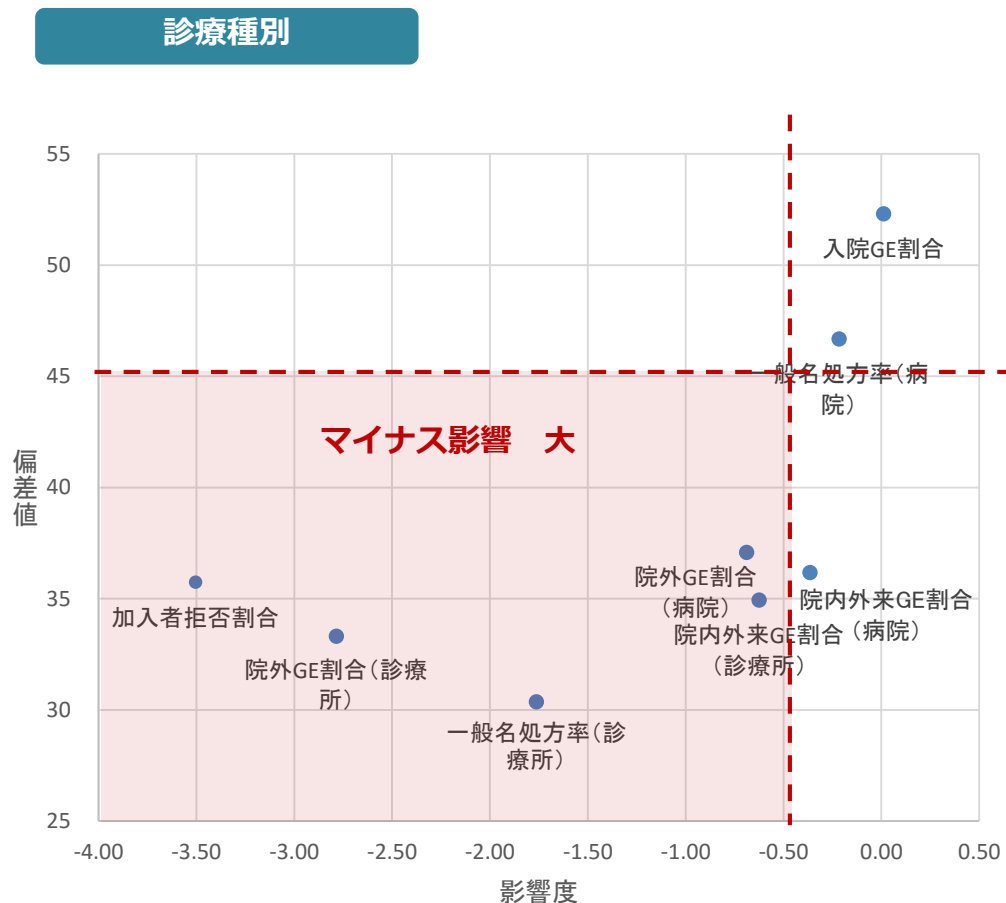
- 診療種別にみると、院外処方（特に診療所）のマイナス影響が大きい。
- 一般名処方にするとジェネリック医薬品の使用割合は高い傾向だが、一般名処方率（特に診療所）が低い
- 加入者のジェネリック医薬品拒否割合が高い。

### 領域3：重点維持

比較的成績は良いが、マイナス影響が大きい領域。偏差値の水準を保つよう注意する。

### 領域1：最優先改善

成績が悪く、マイナス影響も大きい領域。最優先で改善が必要。



### 領域4：現状維持

比較的成績が良く、マイナス影響も小さい領域。現状を維持すれば十分と考えられる。

### 領域2：改善

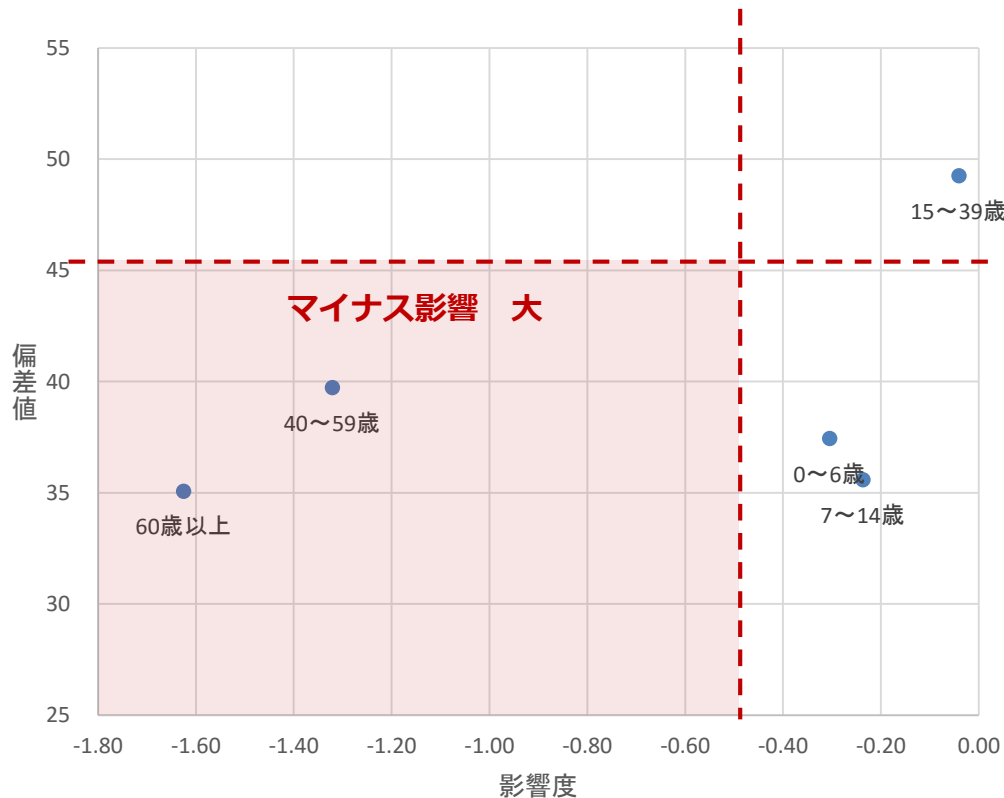
成績が悪いが、マイナス影響は比較的小さい領域。最優先ではないが改善が必要。

# 1. ジェネリックカルテについて

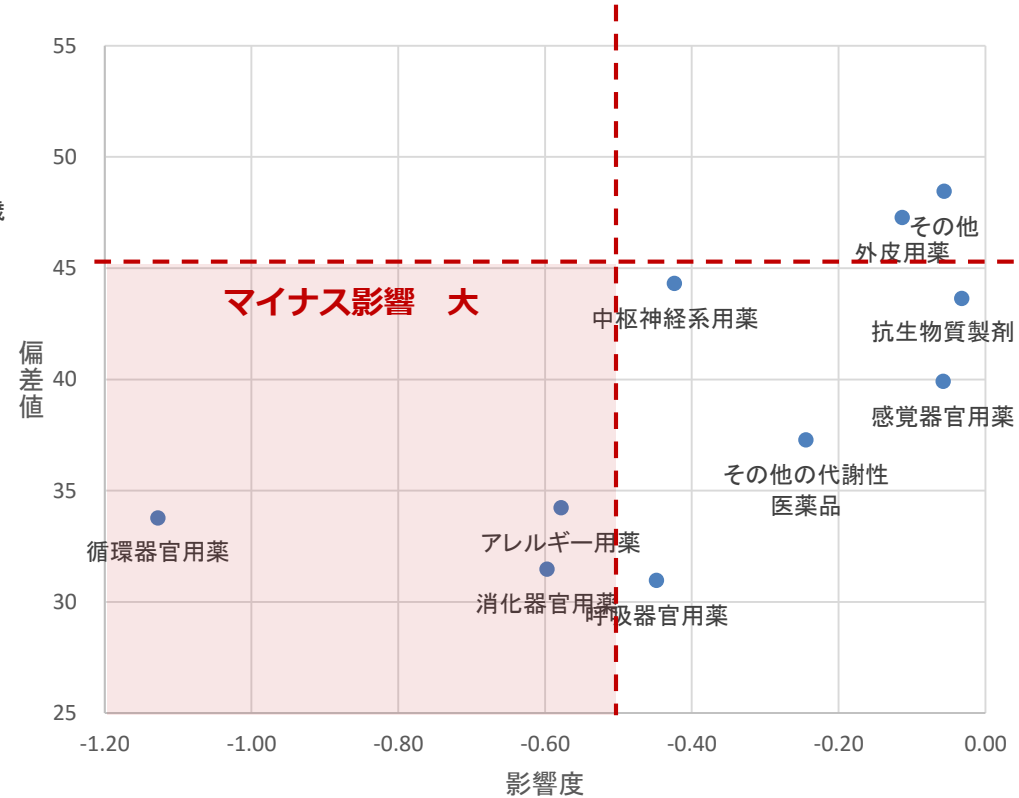
## ■ 「都道府県別ジェネリックカルテ（年代別）及び（薬効分類別）【令和2年10月診療分】」からわかる傾向

- 年代別にみると、**40歳以上のマイナス影響**が大きい。
- 薬効分類別にみると、特に**循環器官用薬のマイナス影響**が大きい。

### 年代別



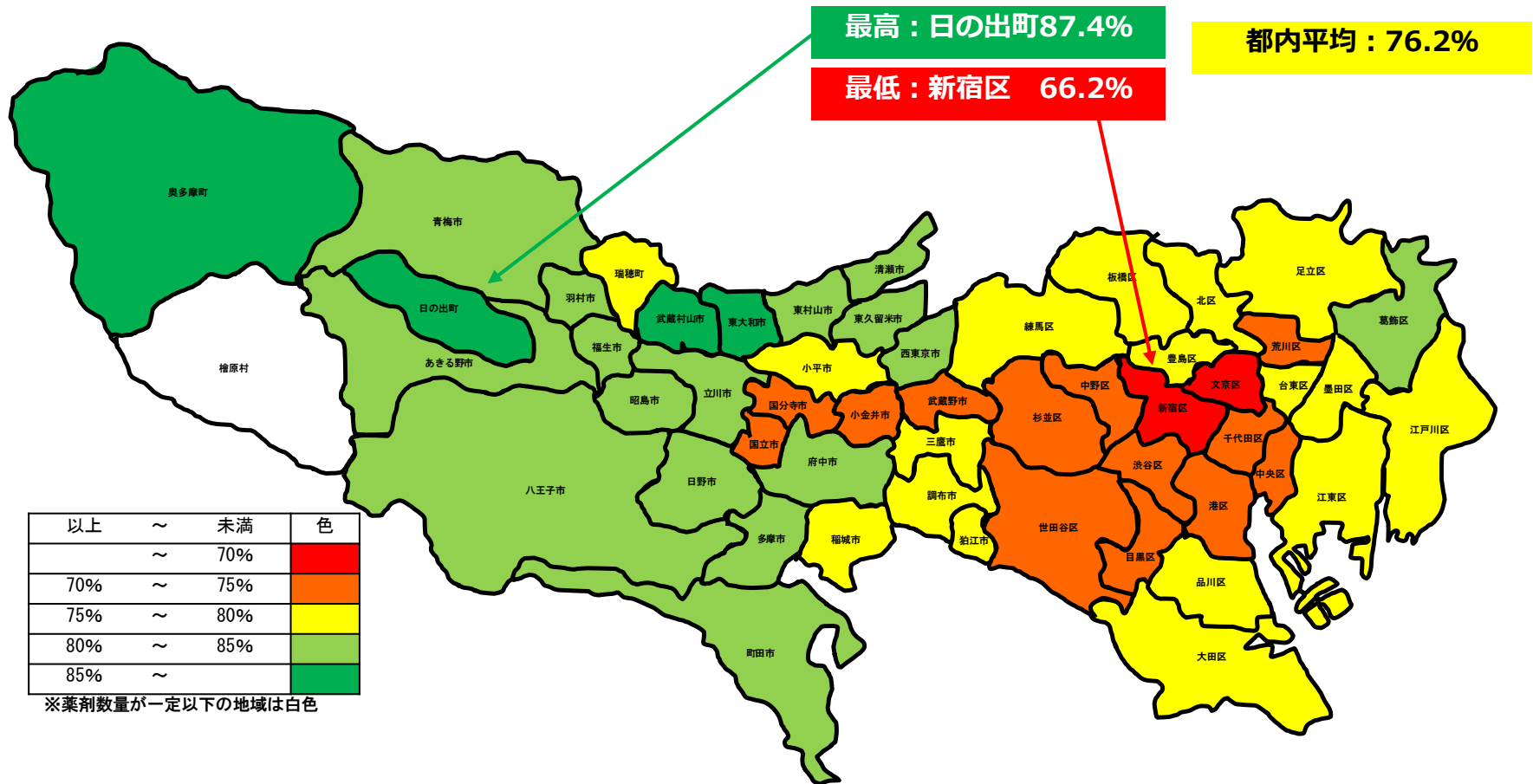
### 薬効分類別



# 1. ジェネリックカルテについて

## ■ 「区市町村別ジェネリックカルテ（診療種別）【令和2年10月診療分】」からわかる傾向

○ 区市町村別にみると、**都心部の使用割合が低い。**



※1：区市町村別の使用割合の集計は、都内医療機関及び薬局の所在地に基づく。

※2：協会けんぽ東京支部の医科、DPC及び調剤レセプトを対象とする。

## **2. ジェネリックカルテを踏まえた 使用促進のための取り組み**



## 2. ジェネリックカルテを踏まえた使用促進のための取り組み

- 主な低迷要因のパターンとジェネリックカルテによる判別方法は、下の表のとおり。
- 一般的には複数の要因が重なるため、**優先度を見極めたうえ複合的な対策を実施**する。
- 課題に応じて、**ピンポイントアプローチとポピュレーションアプローチの使い分けが必要**となる。

### 【主な要因と対策】

要因分類	低迷要因パターン	ジェネリックカルテからの判別方法	取り組みの方向性（例）
院外処方 低迷型	①処方医療機関要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院外処方のジェネリック医薬品使用割合のマイナス影響が大きい。</li> <li>○ 一般名処方限定調剤ジェネリック使用割合の偏差値が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 処方箋発行元医療機関に対する一般名処方への協力呼びかけ。 （ピンポイント）</li> </ul>
	②薬局要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院外処方のジェネリック医薬品使用割合のマイナス影響が大きい。</li> <li>○ 一般名処方限定調剤ジェネリック使用割合の偏差値が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 薬局からの積極的な患者意向確認及びジェネリック医薬品調剤の働きかけ。 （ピンポイント）</li> </ul>
	③患者要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院外処方のジェネリック医薬品使用割合のマイナス影響が大きい。</li> <li>○ 加入者拒否割合の偏差値が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 加入者に対するジェネリック医薬品に関する正しい知識の周知。 （ポピュレーション）</li> </ul>
	（うち小児低迷型）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他の年代と比較して、小児のジェネリック医薬品使用割合及び偏差値が低い。</li> <li>○ 都全体に対するマイナス影響が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子育て世代への情報提供や協力の呼びかけ。 （ポピュレーション）</li> </ul>
	（うち公費低迷型）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公費対象者のジェネリック医薬品使用割合が加入者全体より低く、偏差値が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公費対象者への情報提供や協力の呼びかけ。 （ポピュレーション）</li> </ul>
院内処方 低迷型	院内処方医療機関要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院内処方のジェネリック医薬品使用割合のマイナス影響が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジェネリック医薬品の採用支援 （ピンポイント）</li> </ul>

## 2. ジェネリックカルテを踏まえた使用促進のための取り組み

### 【訴求相手及び取り組み（例）】

要因分類	低迷要因パターン	訴求相手	取り組み（例）
共通	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都内関係者 （都、区市町村、医療保険者など）</li> <li>○ 医療関係者 （地区医師会、薬剤師会など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジェネリックカルテなどによる課題の共有。</li> <li>○ 共同事業の実施。</li> <li>○ 地域の会議などでの意見発信。</li> <li>○ 事業に対する理解及び協力。</li> </ul>
院外処方 低迷型	①処方医療機関要因	○ 病院・診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療機関への訪問などによる情報提供、課題のヒアリング。</li> <li>○ 一般名処方協力依頼。</li> </ul>
	②薬局要因	○ 薬局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジェネリック医薬品処方割合が高い薬局の好事例の紹介 （例：問診票の工夫など）。</li> <li>○ 地域の医薬品使用実績リストの提供。</li> </ul>
	③患者要因	○ 加入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保険料や税負担と関連付けした広報。</li> <li>○ 重症化予防事業などと関連付けした広報。</li> </ul>
	（うち小児低迷型）	○ 小児患者の親	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 乳幼児及び義務教育就学児の医療費助成制度の医療証の更新・終了のタイミングに合わせた広報。</li> <li>○ 小児救急ハンドブック、地域情報冊子などを活用した広報。</li> </ul>
	（うち公費低迷型）	○ 公費対象者（加入者全体）	○ 公費対象者に対する広報。
院内処方 低迷型	院内処方 医療機関要因	○ 病院・診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療機関への訪問などによる情報提供、課題のヒアリング。</li> <li>○ 地域の医薬品使用実績リストの提供。</li> </ul>

# **【参考】ジェネリック医薬品使用促進の ための主な取り組み(協会けんぽ)**

## 【参考】ジェネリック医薬品使用促進のための主な取り組み(協会けんぽ)

### 加入者

- ジェネリック医薬品希望シールの配布
- ジェネリック医薬品への切替による軽減額の通知
- 各種媒体を利用した広報

### 医療提供者

- 自局の調剤状況に基づくジェネリック医薬品に関するお知らせ **(参考①) P12・13**
- ジェネリック医薬品処方実績リスト **(参考②) P14**

### データを活用した分析

- ジェネリックカルテ

### 関係機関

- 後発医薬品安心使用促進協議会

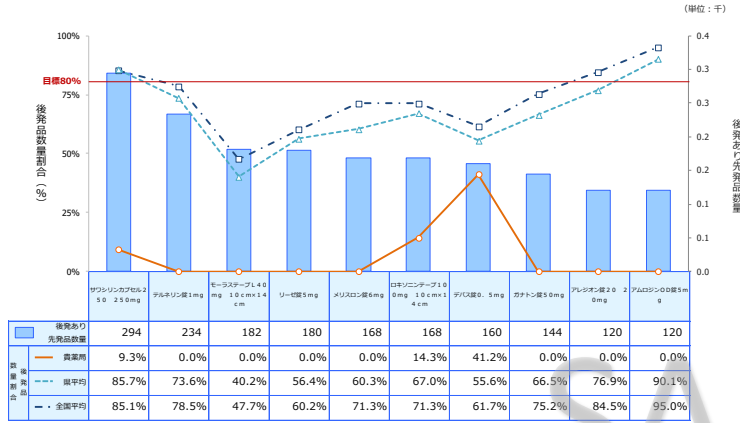
など

# 参考①: 自局の調剤状況に基づくジェネリック医薬品に関するお知らせ

No.2021-03-00001

## 6. 貴薬局における後発品数量割合向上に寄与する上位10医薬品

後発品数量割合向上に寄与する上位10医薬品をお知らせします。  
 目標80%に達していない医薬品は、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。



※後発のある先発品を数量の多い順に最大10品目掲載しています。  
 後発医薬品の有無判定において、効能効果・用法用量の違いは考慮しておりません。

## ジェネリック医薬品に関するお知らせ

～貴薬局の調剤状況について～

M-00001

〒999-0001  
 中野区中野九丁目9番1号

協会けんぽ薬局 御中

全国健康保険協会 東京支部  
 〒164-8540  
 中野区中野4-10-2  
 中野セントラルパークサウス 7階

保険薬局ごとに

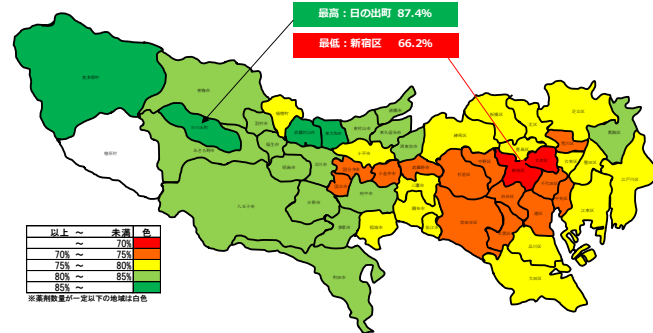
- 「ジェネリック医薬品の調剤割合」
- 「薬効分類別調剤割合」
- 「保険薬局におけるジェネリック医薬品向上に寄与する上位10医薬品」などを掲載

## ～医療機関及び薬局の所在地ごとの使用割合～

### 東京都内 区市町村別のジェネリック医薬品使用割合 (令和2年10月診療分)

使用割合は確実に上がってきていますが、都心部ほど低い傾向にあります。

都内平均: 76.2%



※1: 区市町村別の使用割合の集計は、都内医療機関及び薬局の所在地に基づきます。  
 ※2: 協会けんぽの薬局、DPC及び調剤レセプトを対象としています。

## 1. 協会けんぽ加入者への調剤状況

「貴薬局」「二次医療圏」「都平均」の後発品にかかる調剤状況をお知らせします。



協会けんぽ薬局		貴薬局	二次医療圏平均	都平均
人数	貴薬局にて調剤した協会けんぽの加入者数	117人	132人	121人
	後発品を調剤した加入者数	76人	90人	89人
	後発品を調剤した加入者割合	65.0%	68.3%	73.4%
数量	貴薬局の調剤数量	15,954	26,639	23,197
	後発品のある先発品医薬品の調剤数量	4,283	4,390	3,370
	後発品の調剤数量	7,663	12,359	11,645
後発品数量割合	64.1%	73.8%	77.6%	
金額	貴薬局にて調剤した医薬品の薬剤金額	594,108円	1,746,510円	1,266,604円
	後発品の薬剤金額 (10割)	144,121円	246,610円	213,879円
	後発品金額割合 (10割)	24.3%	14.1%	16.9%

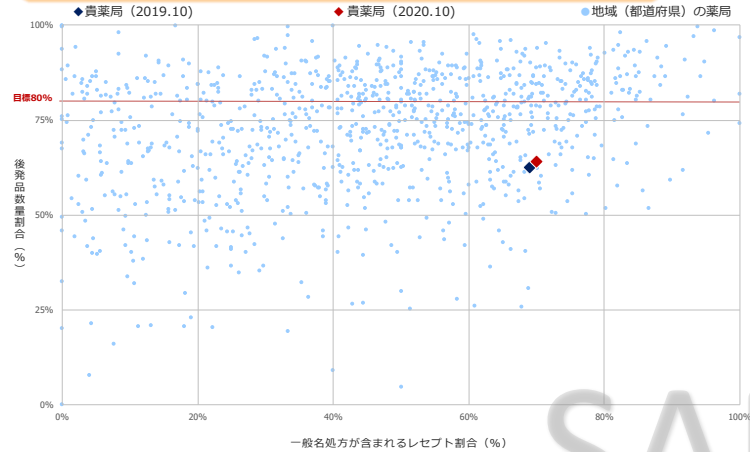
※本紙に掲載している情報は、協会けんぽ 令和2年10月診療分の調剤レセプトにもとづいて作成しています。

※処方せんの変更不可欄の有無については、レセプトデータからは把握できないため反映されておりません。ご了承ください。

# 参考①自局の調剤状況に基づくジェネリック医薬品に関するお知らせ

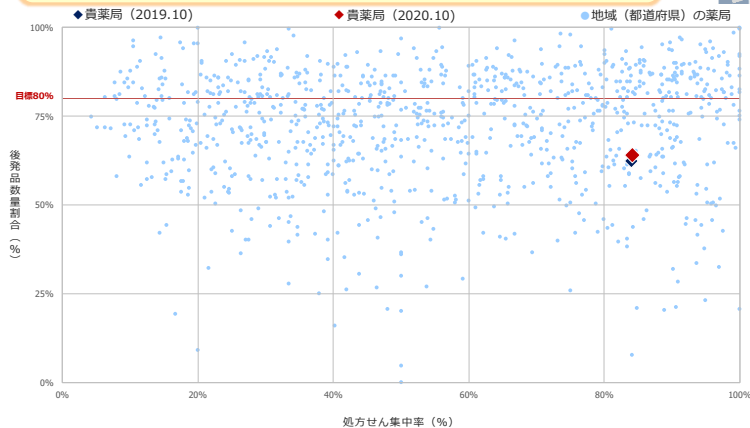
## 2.後発品数量割合と一般名処方が含まれるレセプト割合による貴薬局の位置づけ

「後発品数量割合（縦軸）」と「一般名処方が含まれるレセプト割合（横軸）」をもとに貴薬局の位置づけをお知らせします。地域の後発品使用状況を参考にさせていただくとともに、さらなる後発品の使用促進にご協力をお願いします。



## 3.後発品数量割合と処方せん集中状況による貴薬局の位置づけ

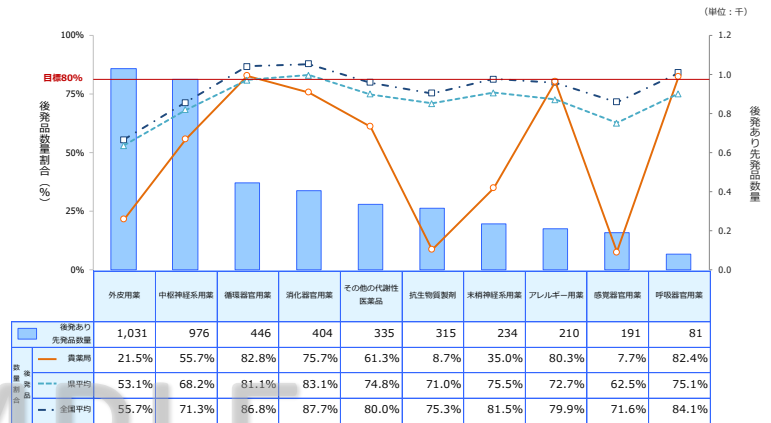
「後発品数量割合（縦軸）」と「処方せん集中率（横軸）」をもとに、貴薬局の位置づけをお知らせします。地域の後発品使用状況を参考にさせていただくとともに、さらなる後発品の使用促進にご協力をお願いします。



※ 処方せん集中率は、主たる医療機関（処方せん発行数が最大の医療機関）からのレセプトが占める割合

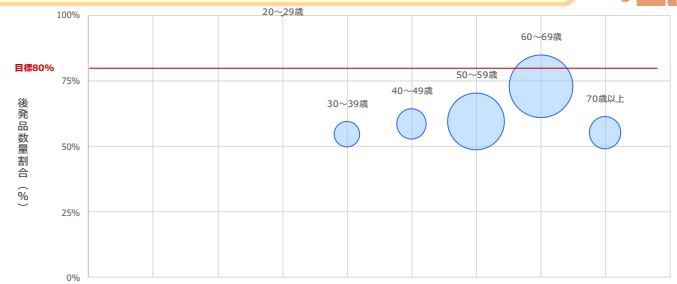
## 4.貴薬局の薬効分類別後発品数量割合

貴薬局における「後発あり先発品」の数量が多い薬効分類上位10種をお知らせします。国目標80%に達していない薬効は、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。



## 5.貴薬局の年齢別後発品数量割合

貴薬局における年齢別後発品数量割合をお知らせします。国目標80%に達していない年齢については、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。



	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
処方数量	-	-	15	813	1,120	3,861	4,877	1,260
後発あり先発品数量	-	-	0	369	464	1,564	1,321	565
後発品数量	-	-	15	444	656	2,297	3,556	695
後発品数量割合	-	-	100.0%	54.6%	58.6%	59.5%	72.9%	55.2%

## 参考②:ジェネリック医薬品処方実績リスト

- 協会けんぽ加入者の医薬品使用実績より、「ジェネリック医薬品処方実績リスト」を作成。
- 医療機関・薬局が、ジェネリック医薬品を採用する際の参考としていただく。

### 「ジェネリック医薬品処方実績リスト」(イメージ)

五十音	No.	医薬品名	メーカー名	薬価基準記載 医薬品コード	薬効分類 コード	一般名処方の 標準的な記載	薬価	数量	医療 機関数	薬局数	患者数	患者 割合	最安値の後発品 に変更した場合 の可能額(円)
ア	1	先発	アーチスト錠10mg	---	2149032F1021	【般】カルベジロール錠10mg	37.2	85,525	113	751	1,376	24%	1,796,023
		後発	カルベジロール錠10mg「サワイ」	沢井製薬	2149032F1013		16.2	154,606	82	1,421	2,601	76%	
			カルベジロール錠10mg「トーワ」	東和薬品	2149032F1013		16.2	47,559	57	353	823		
			カルベジロール錠10mg「Me」	Meiji Seikaファルマ	2149032F1013		16.2	19,869	---	146	300		
			その他				~16.2	37,954	28	304	632		
	2	先発	アーチスト錠2.5mg	---	2149032F4020	【般】カルベジロール錠2.5mg	20.4	81,706	83	562	880	22%	841,576
		後発	カルベジロール錠2.5mg「サワイ」	沢井製薬	2149032F4012		10.1	214,465	72	1,372	2,309	78%	
			カルベジロール錠2.5mg「トーワ」	東和薬品	2149032F4012		10.1	29,774	34	162	331		
			その他				~10.1	49,994	11	238	458		
	3	先発	アサコール錠400mg	ゼリア新薬	2399009F3028	【般】メサラジン腸溶錠400mg	64.8	218,623	42	337	539	55%	7,345,733
		後発	メサラジン腸溶錠400mg「サワイ」	沢井製薬	2399009F3044		31.2	92,268	---	199	243	45%	
			メサラジン腸溶錠400mg「ファイザー」	マイラン製薬	2399009F3036		31.2	57,495	---		161		
			その他				~31.2	13,608	---	35	41		
	4	先発	アダラートCR錠20mg	バイエル	2171014G4029	【般】ニフェジピン徐放錠20mg (24時間持続)	23.5	151,072	235	1,068	2,338	23%	2,009,258
		後発	ニフェジピンCR錠20mg「トーワ」	東和薬品	2171014G4010		10.2	180,597	101	945	2,643	77%	
			ニフェジピンCR錠20mg「サワイ」	沢井製薬	2171014G4010		10.2	172,865	107	1,092	2,601		
ニフェジピンCR錠20mg「日医工」			日医工	2171014G4010	10.2		119,209	34	701	1,765			
ニフェジピンCR錠20mg「三和」			三和化学	2171014G4010	10.2		42,697	10	233	641			
ニフェジピンCR錠20mg「N.P」			ニプロ	2171014G4010	10.2		25,483	26	135	375			
その他					~10.2		1,135	---	---	24			

協会けんぽのホームページに掲載